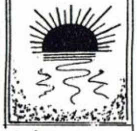
山弓連会報　さんきゅうれん　平成12年第5号　平成13年1月1日発行

山弓連

平成12 第5号



射詰競射8連中で中込V（有段）
大野（女子）・小林（称号）は初優勝

山日YBS杯大会

第14回山日YBS杯弓道選手権大会が、11月23日小瀬武道館で開催された。この大会の目玉は、決勝を射詰競射で行うことにある。女子有段、男子有段、称号の3種別で、それぞれ予選は4射2中以上を通過とし、通過者の射詰競射で優勝を争う。したがって、極度の集中力が必要である反面、意外性も伴う。

女子有段の部は参加23、予選通過8。男子有段の部は参加63（内、オープン参加3）予選通過33。称号の部参加21、予選通過12となり、それぞれの通過者によって決勝が行われた。

決勝では、女子の部は射詰一回目で的中は大野ひとりのみ。あっけなく優勝が決まってしまった。

男子有段の部は予選通過者が多数あったせいもあって、射詰が延々と続き、なかなか見ごたえのある試合となった。きびしいサバイバル戦で次々と落ちていく中で、射詰8回目ようやく優勝が決した。過去の記録を調べてみると、この8連中は新記録。（過去最高は、平成10年12回大会・渡辺の7連中）

称号の部では、一回目の的中が5人。そして二回目で小林ひとりが的中して決まり。少し物足りない感なきにしもあらず。女子が、一・二位を占めた。

尚、予選4射皆中者は、5名（森晴美、水上梨沙、若尾圭未、高野光幸、白須吉人）あったが、いずれも優勝は逃した。各種別優勝者がいずれも予選的中が、2中または3中であったことも併せて、このあたりが「意外性と集中力の大会」と謂う所以な

種別	順位	氏名（支部）	射詰
女子	1	大野陽子（中巨摩）	1
女子	2	森晴美（医大）	0
女子	3	水上梨沙（東代）	0
有段者	1	中込実（中巨摩）	8
有段者	2	細野晃史（甲府）	7
有段者	3	竹村栄寿（甲府）	5
有段者	4	深沢勇（中巨摩）	4
有段者	6	高野光幸（東山梨）	3
称号者	1	小林弘子（中巨摩）	2
称号者	2	望月寿美（中巨摩）	1
称号者	3	塩島健二（西八代）	1

昇段おめでとう

六段合格　菊池敏彦さん

11月の東京審査で、みごと合格。おめでとう。たゆまぬ修練の成果が花開いた。自身の稽古に励むと共に、高体連弓道部専門委員長（6年目）としても活躍し、高校弓道の推進役でもある。平成8年の、インターハイ山梨開催を大成功に導いた、そのみごとな指揮ぶりは、誰もが知るところ。山弓連の将来を担う「星」として期待が集まっている。師匠（故菊地度彦範士）ゆずりのその豪快な射技に益々大きく輝くことを祈る。現在上野原高校教諭 45才。

平成12年納射会

12月3日小瀬武道館で。開会に先立ち、昇段者、受賞者の祝賀セレモニーを行う。祝賀該当者は、錬士蒔田裕雄、六段長田長久、菊池敏彦、県体育功労賞佐野辰巳、小俣嘉助、大村利正、佐野辰巳の七名。記念品の扇子揮毫「至誠一箭」（長田白水氏筆）を贈呈した後、地区代表5人による持的射礼、祝射、受賞者2人による一ツ的射礼（都合により5人欠席）を行った。

そのあと参加者全員による納射会は、播金方式での一手と、競技方式による四ツ矢競技を行った結果、次の通り入賞者がきまった。

順位	氏名（支部）	的中
1	中込実（中巨摩）	6
2	柳本武彦（北巨摩）	5
3	南部保廷（都留）	5

また来年がんばりましょう。

高校新人戦

10月28～29日、小瀬武道館。全国高校選抜大会（3月開催）の県予選をも兼ねて開催。

男子26校42チーム、女子22校41チームが参加。男女とも、第一日目の予選で、上位8チームずつを選び、第二日に、4チームずつに分けてリーグ戦を行って、各パート一位同士で優勝決定戦。

準決勝リーグ以後の成績は次の通り。

○男子

Aパート

吉田A ⑧—3 韮工A
甲西B ⑦—5 石和
吉田A ⑪—6 甲西B
韮工A ⑨—7 石和
韮工A ⑥—3 甲西B
吉田A ⑩—7 石和

Bパート

吉田B ⑧—6 韮崎A
甲昭A 4—⑦ 甲工B
吉田B ⑥（③）—6（0）甲昭A
韮崎A ⑥—2 甲工B
韮崎A ⑨—8 甲昭A
吉田B ⑩—5 甲工B

・決勝戦　吉田A 7—⑩ 吉田B

○女子

上野原B ⑦—5 巨マA
甲南A ⑦—6 桂A
上野原C 6—⑧ 甲南A
巨マA ⑦—4 桂A
巨マA 4—⑥ 甲南A
上野原B ⑩—4 桂A

上野原A ⑨—5 山梨A
甲東B 4—⑤ 甲南B
上野原A ⑪—4 甲東B
山梨A 2—④ 甲南B
山梨A ⑥—5 甲東B
上野原A ⑧—1 甲南B

・決勝戦　甲南A 6—⑩ 上野原A

右の結果、全国高校選抜大会山梨県代表は男子吉田高校、女子上野原高校と決定。

尚、第一日目の予選（8射）成績による個人入賞者は次の通り。

順位	男子	女子
1	渡辺諒（吉田）8中	小林博子（桂）8中
2	志水裕（甲府昭和）8中	石田美帆（甲南）7中
3	小野勝彦（吉田）7中	國野暁李（上野原）7中

中学新人戦

—若い翼の羽ばたき—

11月3日、小瀬武道館。7校男女合わせて122名が参加して開催。各自12射で団体戦（3人チーム）と個人戦を行った結果、成績は次の通り。

別	順位	男子	女子
団体	1	櫛形中B 16中	下吉田中A 11中
団体	2	櫛形中C 13中	石和中B 11中
団体	3	下吉田中A 13中	下吉田中B 10中
個人	1	鈴木利幸（櫛形）9	渡辺美保（下吉田）5
個人	2	内藤崇史（櫛形）7	宮下裕李（下吉田）5
個人	3	矢崎正大（櫛形）7	山本知美（石和）4

関東選抜選手権

11月12日、千葉市天台弓道場で開催。各地連から、有段者5・称号者5、計10名ずつの選手が参加して、個人戦・団体戦での選手権を争った。山梨からは有段の部に、木村竜平、河西宏斉、桜井健三、渡辺元樹、中込実、称号の部に、白須吉人、綿奈部博文、不動田光照、小林弘子、松田恭昭の10選手が出場して、関東の覇権めざして健斗したが、団体戦では惜しくも3位（タイ）となって昨年と同じ順位にとどまり、入賞（二位まで）に一歩及ばなかった。個人戦では綿奈部選手が6中して、9人による二～五位決定戦に望み、みごと四位入賞。有段の部渡辺・中込両選手も5中したが、他に6射皆中者が6人いた為、残念ながら入賞圏外となった。団体戦の成績は下表の通り。

地連（行射順）	有段的中	称号的中	合計	順位
東京一	16	19	35	6
山梨	19	17	36	3
埼玉	17	21	38	1
群馬	15	15	30	10
神奈川	19	12	31	9
東京二	19	13	32	8
千葉	22	14	36	3
栃木	18	18	36	3
東京三	20	18	38	1
茨城	17	18	35	6

今年も総合3位（タイ）

全日本遠的選手権

10月27～29日、新しい中央道場で開催。山梨からも代表5名の選手が参加し、全国の強豪と技を競った。その中で、佐野辰巳・小林弘子両選手が予選通過。決勝では、両選手健斗し、小林選手は途中敗退したものの、佐野選手は好調に的中を伸ばし、みごと四位入賞を果たした。長い間、国体選手として磨いてきた遠的の腕前がモノを言ったか。山梨の技が全国に通用することを証明してみせてくれたが、これからは若い人たちも、こういう大会にどんどん挑戦するようにしてほしい。

全国ねんりんピック

11月3日～6日にわたって、大阪城内弓道場で開催。山梨からの参加者は、伊藤昇、宗達美、平山栄、内田武春、蒔田裕雄、藤原昭子、坂崎瑞子の7選手。アラ座が揃ったメンバーとあって、おおいに期待されたが、戦い利あらず、惜しくも一次予選敗退となった。

日本武道館 鏡開き演武

秋山照美範士が今年も選ばれた。

新春1月8日の、日本武道館鏡開き演武に、前年に引きつづき今年も秋山照美範士が、日弓連代表5名のうちに選ばれて出場することになった。地元地連としても、おおいなる名誉。立派に役目を果たされんことを祈る。

県内審査

秋季県内審査が2回（11月12日・11月19日）実施されたが、その中から117名の有段者が誕生した。内訳次の通り。

	合格者数	合格率
二級	11	
一級	70	
初段	73	77%
二段	25	49%
三段	14	32%
四段	5	42%

今後更に修練に励んで、上を目ざしての努力を重ねてほしい。今回は中学生の受審者が2名あった。この層の広がりをも期待したい。

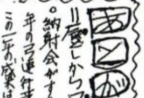
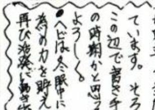
あとがき

辰どしから巳どしへ

○納射会がすんで、今年の弓連行事も終り。この一年の成果は如何？

○この会報5号の原稿を書いているのは平成12年辰どしの暮れ。皆さんの目にとまるのは、年あらたまって、平成13年巳どしの正月。書き手と読み手の間に一年もの（?-）意識のズレが出てきそうな気がして、書きながら悩みました。

○それよりも（それに加えて—かな、）年を経る毎に、年がかわる度に、書き手の頭の回転と、視力と、手の震えの悪化が目立ってきたことへの悩みが大きくなっています。そろそろこの辺で書き手交代の時期かと思っています。よろしく。

●ヘビは冬眠中に生きる為の力を貯え、春には再び活発に動き出します。